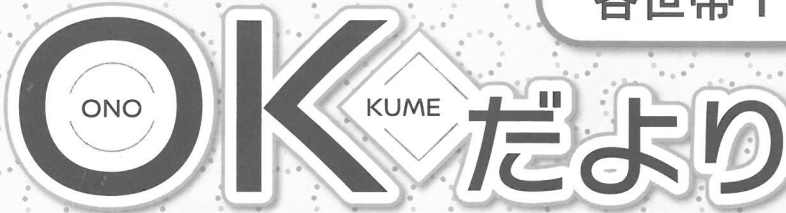


各世帯1部ずつお取りください!!



～いつかあなたのお役に立ちます～



▲HPIはこちら

第6号

令和3年6月発行

OK だより発行2年目 突入!!

OK だよりはR2年3月に初発行し、順調に発行を重ね2年目になりました。

このOK だよりは小野久米地区の「医療・介護・福祉」の情報をできるだけタイムリーに住民の皆さんにお届けする事を目的にしています。果たしてこの目的は達成されつつあるのか?! 果たして皆さんのお役に立てる情報を発信できているのか?! 発行に関わるメンバーは自問自答しています。

そこで、今回はこのOK だよりを手にとってくださった一人ひとりのご意見やご感想を是非ともいただきたいと思います。

ぜひ、このQRコードからアンケートにご協力ください! よろしく願いいたします。

アンケート!!



今回の

医療情報



第9回(R3年1月発表)赤ひげ功労賞受賞!!

友愛医院 亀井敏光先生!

小野地区にある、友愛医院院長の亀井医師が、日本医師会・産経新聞社が主催する『第9回赤ひげ大賞の功労賞』を受賞されました。赤ひげ大賞とは地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績を顕賞し広く国民に伝えるためにH24年から大賞受賞者5人と若干名の功労賞受賞者を選定し表彰している事業です。そんな名誉ある賞を受賞した亀井先生に話をお伺いしたくて依頼したところ「恥ずかしいけどお受けしますよ」と言ってくださったので、早速インタビューに行ってきました。

診療が終わった時間でしたが、疲れた表情も見せず、医師になった頃のことから、懐かしそうに、楽しそうに話をしてくださいました。

亀井先生は、昭和57年、自治医科大学を卒業された後、愛媛県立中央病院、松野町国保目黒診療所などを経て、平成3年から友愛医院副院長就任、平成23年からは同医院理事長に就任されました。小児を含めた在宅医療に長く貢献し、地域の方住民とは気さくに、親身に、近隣の介護事業所の職員とは情報交換を密に行い、病気だけでなく暮らしを知ることが大事にされ、小児から看取りまで、熱い情熱をもって日々、診療されてきました。

松野町にいた頃は診療が終わると、地域の方がお酒を用意してくれていっしょに語り合ったり、川を渡り船で渡って往診に行ったりと僻地ならではの経験だったと楽しそうに話をしてくださいました。

「在宅医療を始めた当時は、今のように訪問診療制度もなかったけど、必要と思うことは、制度になくてもしていた。今は制度が追い付いてきた。在宅医療の基礎を築いてきた自負がある。在宅医療は、みんなの力(家族・医療者・介護者、福祉など)で、(患者さんが)立ち直っていく過程を見ていくのが好き」と、語る亀井先生。

友愛医院は令和2年4月で病棟を閉鎖し外来診療と、訪問診療・往診のみになりました。

10年以上一緒に働いている職員が多く、雰囲気の良い感じさせます。一緒に働いている看護師さんにも話を聞いてみました。

亀井先生のいいところは?

M看護師さん「看護師のことも考えてくれて、厳しさもあるが、優しさもあり、働きやすい職場だと思っています」

A看護師さん「患者さんのことを一番に考えている。尊敬できる」

職員からの信頼も厚い亀井先生ですが、知る人ぞ知る、お酒大好き。受賞のお祝いのお酒と一緒に記念撮影をしました。

これからも、体を大事に(お酒もほどほどに)情熱と愛情を持って、地域を駆け回る先生を期待しています。



医療法人 友愛医院

〒791-0244 愛媛県松山市水泥町90-1
アクセス●フジグラン重信店から西へ300m国道11号線沿い
TEL:089-976-6262 FAX:089-970-1339

今回の

障がい福祉サービス情報

今回は 10.Stories とてらすに
取材に行ってきました！！

放課後等デイサービスとは

学校に就学している障がい児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力の向上のための訓練や社会との交流の促進、その他必要な支援を行うサービスです。(松山市のホームページより)

10.Stories(テンストーリーズ)

10.Storiesの名前のとおり、「十人十色の物語を紡いでいけるよう支援していきたい。できないことができないではなく、個性や成長発達により添いできることを認め、達成感や自己肯定感に繋がる支援をしていきたい」と担当の稲田さんが話してくださいました。

白を基調にしたシンプルな建物の中には、プロジェクターの部屋があり、大きなスクリーンとカラフルで移動可能な机と椅子が目を楽しめます。この大きなスクリーンでの視覚支援は10.Storiesの特長で、お約束ビデオと題して、車の中での過ごし方や行楽に行く場所を事前に見ることで社会的ルールを学び、自信に繋がるような支援を行っているそうです。一日の終わりにはプロジェクターによる水族館モードで大画面を泳ぐ魚を観て、癒しの時間を作っているとのことでした。放課後の時間を一人一人に合わせて、ゆっくりと過ごせるように工夫され、スタッフが関わっています。

この放課後デイサービスを知らずにもし、今、子どもの特性や個性にあった居場所を探している方がいれば、ぜひ、10.Storiesに相談してみてもいいでしょうか？



◆お問い合わせ先 / 10.Stories テンストーリーズ ◆ Tel.089-909-5205 (稲田)

◆サービス提供時間 / 月～金曜日 14:00～18:00 / 土曜日、学校休校日、夏休み等 8:30～17:30



障害福祉リハビリテーション施設 多機能型事業所 てらす

てらすの特徴は「年齢や生活ステージを追って支援が出来る事」。

てらすという一つの事業所の中に「児童発達支援」「放課後等デイサービス」「生活介護」「就労移行支援」「相談支援事業」これだけのサービスがあります。

相談支援専門員の水川さんは「成長過程を実感できる場面に出会えると感無量です！」とうれしそうに話してくださいました。

児童発達支援事業所は未就学児対象、その後は放課後等デイサービスへ移行します。預かりだけでなく、療育や訓練にも重点を置き、人生のライフステージ毎に必要な支援を行う事で、将来を見据えた支援へと繋げる事が出来ます。学校を卒業した後もリハビリや身体介護が必要な方は生活介護が利用出来ます。生活介護では事故や疾病による障がいを持つ方も利用されています。そして、一般就労を目指す方には就労移行支援があります。

放課後等デイサービス管理者の中矢さん、生活介護・支援管理者の松下さん、相談支援員の水川さん、どの方も「子供がいずれ社会に出る時に困らないように、大人になって社会に出た時にも困り事が少なくなるように」との思いで一人ひとりの利用者さんに関わっています。

もし、お子さんの事で気になる事があったり、障がいがあっても仕事をしたい、と思う方は、ぜひ相談してみてもいいでしょうか？

◆お問い合わせ先 / 多機能型事業所 てらす (中矢)

◆ Tel.089-968-1386

◆サービス提供時間 / 月～土 9:00～16:00

松山市平井町甲2293番地4

認知症本人大使「希望大使」ってなんだろう?!

認知症とともに生きる「希望大使」、誕生

認知症になっても何事からも逃げず、何事でも向き合おうという姿勢が、大切なこと。できることはたくさんあります。このように生きる希望を伝えるのは、あなた自身です。



希望の輪を
広げたい。

「認知症とともに生きる希望宣言」

- 1 認知症になっても、自分らしく生きよう。周囲の人に迷惑をかけることなく、できる範囲で生きていきます。
- 2 自分らしく生きていくために、必要に応じて周囲の人に助けを求め、助けを求めながら生きていきます。
- 3 自分らしく生きていくために、必要に応じて周囲の人に助けを求め、助けを求めながら生きていきます。
- 4 自分らしく生きていくために、必要に応じて周囲の人に助けを求め、助けを求めながら生きていきます。
- 5 認知症になっても、自分らしく生きよう。周囲の人に迷惑をかけることなく、できる範囲で生きていきます。

厚生労働省

クリック

厚生労働省 認知症本人大使

検索

みなさん、「希望大使」という言葉を聞いたことがありますか？これは、令和元年6月18日に国から発表された“認知症施策推進大綱”の中で位置づけられた施策の一つで、認知症に対する正しい理解が得られるように、認知症ご本人が自らの体験を発信していこうという取り組みです。この取り組みでは「希望大使」として国から任命された5名が活動をしています。(厚生労働省ポスター写真参照)また、地方版希望大使という形で、各都道府県からも希望大使の選任が始まっており現在、静岡県、香川県、大分県から希望大使が任命され活動しております。近い将来、愛媛県からも希望大使が誕生するかもしれません。

希望大使の方は「本人ができることを奪わないで欲しい」「本人だからこそできることがある」「一人でも多くの人にこれまでの否定的なイメージを打ち破って希望を持って生きて欲しい」など発信しています。認知症ご本人からの自らの体験談は私達に様々な気づきを与えてくれます。ご本人の声に耳を傾けることで、認知症を自分ごとと捉え地域全体で正しい理解が進めば、認知症になっても希望を持った暮らしが実現するのではないのでしょうか…。年を重ねれば誰もがなりうる認知症…。実はあなた自身も認知症になる可能性を秘めています。将来自分自身が認知症になったときを想像してみてください…。認知症に対する理解が普及していれば、きっと希望をもった暮らしの実現ができると思います。今一度、希望大使を始め身近にいる認知症ご本人の声に耳を澄ませてみませんか？

厚生労働省のホームページで認知症ご本人のメッセージ動画が閲覧可能です。ご興味がある方は是非ご覧下さい。



今回の

耳より情報

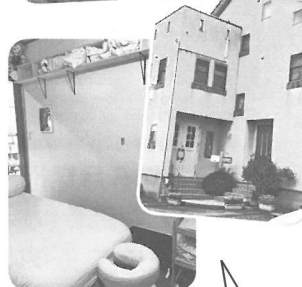
まつお治療院メリッサ

リンパ浮腫という病気をご存じですか？あまり知られていない病名ですが、手術でリンパ節を取り除くなど(原因不明の時もあります)、リンパの流れが停滞することで、腕や脚が生涯にわたり浮腫むことがあり、これをリンパ浮腫といいます。愛媛県でも数少ないリンパ浮腫の治療院が、実は小野久米地区にあると噂に聞き、調べたところ、南梅本にある「まつお治療院」だとわかりました。セラピストの松尾ゆかりさん(鍼灸マッサージ師)に話を聞いてきました。

「病院のリンパ浮腫外来などからの紹介で来られる方が多いです。30分～1時間くらいかけて“用手的リンパドレナージュ”をします。最初は週1回から通い、だんだん、間隔をあけていき、1か月に1回などで来られる方もいらっしゃいます。南予や東予からも来られており、セルフケアの方法を指導したり、外出が難しい方には出張もしています。」

施術された方は、「長年リンパ浮腫に悩み、たまたままつお治療院のことを聞いて通うようになった。自分は知ることが出来てラッキーだった」と話す方もいるそうです。

医療保険は適用されず自費での治療になりますが、お悩みの方がいらっしゃったら、一度ご相談してはいかがでしょうか。基本的には10分1000円(腕なら30分程度、脚なら50分程度：施術部位にの大きさや、皮膚の硬さなどにより時間も変わります)で、出張の場合は別途交通費がかかります。「はり きゅう あんま もできます!」



静かな住宅地にあり、お部屋はプライバシーや清潔感に配慮されており、コロナ感染症対策もしっかりされています。

まつお治療院メリッサ 松山市南梅本町352-10 電話番号089-976-3769 Pあり

今回の

介護保険サービス情報



小規模多機能ホーム 里山

介護保険サービスの一つ、小規模多機能ホーム里山をご紹介します。

小規模多機能とは「通い」「宿泊」「訪問」といったサービスを組み合わせて、地域で暮らす高齢者が「その人らしく」安心して生活し続けるため、必要な支援をする所です。

副施設長の上山さんは「地域で生活する人々と交流し、社会参加できる機会を作り、地域福祉の拠点になりたいです。その人らしい暮らしを支えるために、慣れ親しんだ自宅での過ごし方、地域の『人』『物』『場所』とのつながりを大切に、必要なサービスを提供しています。」と熱く語ってくださいました。

里山では「一つでも多くのやりたい、こうありたい」を支える介護を推進しています。

1. 身の回りのことは自分でしたい。
2. 動きたい！元気でいたい！
3. 趣味を続けたい。
4. 誰かの役に立ちたい。
5. 物忘れへの不安

こんな風に感じている方がおられたら、ぜひ一度相談してみてください。

山も庭もお花がたくさん咲いていて、建物内は、スペースが広くゆったりしており、ほっこり温かな「里山」は地域と社会をつないでくれる素敵な事業所でした。



小規模多機能ホーム里山 松山市鷹子町1111-1

◆お問い合わせ/089-993-7322 担当：上山(かみやま)

OK だより事務局より

OK だよりに掲載してほしいことや調べてほしいことがあれば、事務局の松山市地域包括支援センター小野・久米までお知らせください。

089-970-3761 (松山・宮内)

令和3年6月発行

取材・編集

小野久米地区地域連携を考える会

丸田 裕・丹下 明子・塩崎 由利・畠山 忠・柿坂 健介・三宅 孝子
渡部 保子・青木 正樹・横田 麻弥・竹下 賢之・宗岡 直美・仲村 竜哉
東倉 隆史・余田 英樹・岩川 孝之・宮内 友美・松山絵理香

発行者

小野久米地区地域連携を考える会

事務局

松山市地域包括支援センター小野・久米
松山市鷹子町740 (鷹子ふれあい館2階) TEL: 089-970-3761

印刷

太陽印刷株式会社